

# 学校週5日制に関連する諸問題についての 中学生の保護者の意識

保健体育教室 福元 和行

## A Study on the Consciousness of Protectors about Some Problems concerning with the Five-Day-Week System in Junior High School

Kazuyuki FUKUMOTO\*

### I 研究目的

平成4年9月より小・中・高等学校に月1回の学校週5日制が導入され、現在は月2回で実施されている。そして、21世紀の初頭には完全週休5日制が実施されることになっているが、このような流れの中で教育課程審議会は中央教育審議会の第一次答申を受け、「生きる力とゆとり」というテーマの下で、教育課程の再編成作業を行っており、近い将来教育内容の大規模な変更が行われるだろう、と言われている。

現在は学校週5日制の過渡期にあり、児童・生徒の意識や活動実態あるいは保護者の意識についての報告<sup>1~11)</sup>や教師・学校側の学校経営の実態に関する報告<sup>12~15)</sup>があるが、児童・生徒の調査では、学校週5日制に対する賛成・反対、休業土曜日の過ごし方についての希望や活動実態、問題点などについて、かなりのことが明らかになっている。また、保護者の調査では学校週5日制に対する賛成・反対、休業土曜日に子供に期待する休業土曜日の過ごし方などについても多くの報告があるが、しかし、学校週5日制についてどのような人がどのような意見を持っているかという観点からの分析は見られない。

また、学校経営の実態に関する報告では、学校週5日制の導入により学校の行事の削減が進行しつつあり、体育的行事も減少しつつある実態が明らかになっている<sup>16,17)</sup>。そのため、運動会の平日開催<sup>18)</sup>や地域の行事への移行の可能性<sup>19)</sup>を指摘する意見もある。さらに、教育課程の再編成作業が現在行われているが、体育の授業時数の削減の可能性を指摘する意見<sup>20)</sup>もあり、新編成される教育課程の内容については学校体育経営への影響の甚大さから気になるところである。

このように学校週5日制の実施や学校の体育的行事の削減など、新制度の導入により現在すでに変化の表れている問題と新たに今後議論される問題があるが、これらの問題に対して保護者はどのように考えているのであろうか。また、どういう保護者がどういう意見を持っているのであろうか。本研究はこれらの分析を研究目的としている。

\* Department of Physical Education, Faculty of Education, Tottori University

## II 研究方法

### 1 データの収集

鳥取大学附属中学校の生徒全員に調査票を持ち帰ってもらい、保護者が記入した後回収した。回収した部数は男子82部、女子285部の合計367部である。なお、調査に協力して頂いた人の特性を示したのが表1である。

調査期間は1996年7月である。

表1 標本の特性

特性		N	%
回答者の性別	男子	82	22.3
	女子	285	77.7
回答者の年齢	30才代前半	7	1.9
	30才代後半	85	23.4
	40才代前半	191	52.5
	40才代後半	71	19.5
	50才代前半	10	2.7
子供数	1人	22	6.1
	2人	177	48.9
	3人	143	39.5
	4人	19	5.2
	5人	1	0.3
中学在籍中の年長兄の学年	中学1年	130	35.5
	中学2年	116	31.7
	中学3年	120	32.8
学校への期待内容	学力を向上させて欲しい	178	51.7
	躰の教育をして欲しい	4	1.2
	個性を伸ばして欲しい	73	21.2
	社会性を育成して欲しい	85	24.7
	その他	4	1.2
父親と子供の会話の頻度	よく会話する	172	48.2
	たまに会話する	147	41.2
	あまり会話しない	24	6.7
	ほとんど会話しない	14	3.9
母親と子供の会話の頻度	よく会話する	317	86.8
	たまに会話する	41	11.2
	あまり会話しない	5	1.4
	ほとんど会話しない	2	0.5

## 2 データの分析

どういふ保護者がどういふ意見を持っているのかを探るため $\chi^2$ 検定を行ったが、検定結果の有意性については、表タイトルの右肩につけたアスタリスクにより示した。また、有意差の見られる $2 \times 3$ 以上の分割表を使用した変数については、残差分析も行った。残差分析の結果は表中の数値の右肩につけたダッカー及びアスタリスクにより示したが、†は有意傾向、\*は5%水準、\*\*は1%水準として、\*\*\*は0.1%水準の有意性をそれぞれ示している。なお、各項目間のクロス集計結果の中で、男女別の分析結果についてはすべての組み合わせを掲載したが、男女別以外の組み合わせについては、有意差の認められる組み合わせのみ記載した。

## III 結果及び考察

### 1 保護者の学校週5日制に対する賛否

#### 1) 男女別に見た賛否

表2-1は保護者を男女別に見た学校週5日制に対する賛否である。男女ともに賛成の比率が反対の比率を大幅に上回っている。男女間の比較では賛成である、何ともいえない、で男女間に10%程度の差が見られるものの、学校週5日制については男女ともに5割前後の保護者が賛成していると考えられる。この結果を同じく中学生の保護者を調査対象としているくもん子ども研究所の調査結果<sup>21)</sup>と比較すると、賛成の比率が男子では同程度であるが、女子では本調査が10%程度低くなっている。

表2-1 男女別に見た学校週5日制に対する賛否

	男子	女子
賛成である	55.0	45.8
何ともいえない	30.0	40.8
反対である	15.0	13.4
	(N=80)	(N=277)

#### 2) 小・中学校に在籍する年長男子の年齢別に見た賛否

表2-2は小・中学校に在籍する年長男子の年齢別に見た学校週5日制への賛否である。 $\chi^2$ 検定を行った結果、有意差が認められたため残差分析を行ったが、学校週5日制に対して12才、13才では賛成が多く、14才、15才では賛成が少ない。また、反対については小・中学校に在籍する男子はいないとする保護者で少なく、11才以下に多く(有意傾向)になっている。高校を受験する年齢である15才の長男を持つ保護者で賛成が最も少なく、15才・14才<sup>22)</sup>のグループと13才・12才のグループとでは賛成に対する比率が非常に異なっており、年齢の違いによる高校受験への対応の切実度が表れているものと見ることが出来よう。また、この結果を中学3年生の保護者を調査対象とした日本PTA全国協議会の調査結果<sup>22)</sup>と比較すると、賛成の比率はほぼ等しい。

表2-2 小・中学校に在籍する年長男子の年齢別に見た学校週5日制への賛否\*\*\*

	12才	13才	14才	15才	11才以下	男子いない
賛成である	60.7*	60.9*	29.6**	28.6 <sup>†</sup>	39.4	50.9
何ともいえない	23.2**	26.1*	61.1***	52.4	39.4	42.1
反対である	16.1	13.0	9.3	19.0	21.2 <sup>†</sup>	7.0*
	(N=56)	(N=69)	(N=54)	(N=21)	(N=33)	(N=114)
	$\chi^2=31.380$		<sup>†</sup> p<.10	*p<.05	**p<.01	***p<.001

なお、年長女子についても男子と同様の分析を行ったが、有意差は認められなかった。

### 3) 父親との会話状況別に見た賛否

表2-3は日常生活での父親との会話状況別に見た学校週5日制に対する賛否である。 $\chi^2$ 検定を行った結果有意差が認められたため残差分析を行ったが、日常生活で子供とあまり会話をしないとする父親に、学校週5日制への反対が多く見られた。また、たまに会話するとする父親に何ともいえないという意見が見られた(有意傾向)。

なお、母親との日常生活での会話状況についての分析も行ったが、有意差は認められなかった。

表2-3 父親との会話状況別に見た学校週5日制への賛否\*

	よく会話する	たまに会話する	あまり会話しない
賛成である	53.7	45.0	51.2
何ともいえない	40.9	49.6 <sup>†</sup>	32.6
反対である	5.5	5.4	16.3**
	(N=164)	(N=129)	(N=43)
	$\chi^2=10.084$		<sup>†</sup> p<.10 *p<.05 **p<.01

### 4) 期待する休業土曜日の過ごし方別に見た賛否

表2-4は期待する休業土曜日の過ごし方別に見た学校週5日制への賛否である。 $\chi^2$ 検定を行った結果有意差が認められたため残差分析を行ったが、休業土曜日には勉強して欲しいとする保護者では学校週5日制に反対の人が他の群と比較してきわめて多く、賛成の人は少ない。一方、休業土曜日にはゆっくり休養して欲しいと考えている人では賛成の人が多く、反対の人が少なくなっており、休業土曜日の過ごし方についての保護者の期待内容と学校週5日制に対する賛否との間に関連性のあることがわかる。

表 2-4 期待する休業土曜日の過ごし方別に見た学校週5日制への賛否\*\*\*

	I	II	III	IV	V
賛成である	22.2***	44.7	46.6	58.5**	46.9
何ともいえない	36.1	42.4	41.4	32.6	43.8
反対である	41.7***	12.9	12.1	8.9*	9.4
	(N=36)	(N=85)	(N=58)	(N=135)	(N=32)

I : 勉強して欲しい  $\chi^2=33.344$  \* $p<.05$  \*\* $p<.01$  \*\*\* $p<.001$   
 II : 文化的・芸術的活動をして欲しい  
 III : スポーツをして欲しい  
 IV : ゆっくり休養して欲しい  
 V : その他

## 5) 体育的行事の削減に対する意見別に見た賛否

表 2-5 は体育的行事の削減に対する意見別に見た学校週5日制に対する賛否である。 $\chi^2$ 検定を行った結果有意差が認められたため残差分析を行ったが、体育的行事の削減に対して好ましいと考えている人では学校週5日制に対して賛成の人が多く見られる。他方、体育的行事の削減に対して好ましくないと考えている人では学校週5日制に対して賛成の人が少なく、反対の人が多い。

表 2-5 体育的行事の削減に対する意見別に見た学校週5日制への賛否\*\*\*

	好ましい	何ともいえない	好ましくない
賛成である	65.3**	50.8	36.7**
何ともいえない	20.4**	40.8	41.7
反対である	14.3	8.4**	21.7**
	(N=49)	(N=179)	(N=120)

$\chi^2=20.523$  \*\* $p<.01$  \*\*\* $p<.001$

## 6) 体育の授業時数の削減に対する意見別に見た賛否

表 2-6 は体育の授業時数の削減に対する意見別に見た学校週5日制に対する賛否である。体育の授業が削減されても構わないと考えている人に学校週5日制への賛成者が多く見られる。また、何ともいえないとする人が他の群と比べて少なく、態度の明確な人が多い。

学校週5日制に対して賛成する人にはどういう人が多いのか、また、反対する人にはどういう人が多いのか、ということを検討するため、学校週5日制に対する賛否と保護者の個人的属性及び意

表2-6 体育の授業時数の削減に対する意見別に見た学校週5日制への賛否\*\*

	削減されても構わない	何ともいえない	削減されては困る	
賛成である	61.0**	42.7	44.4	
何ともいえない	22.0***	47.6*	41.0	
反対である	17.1	9.7	14.6	
	(N=82)	(N=124)	(N=144)	
	$\chi^2=14.867$	*p<.05	**p<.01	**p<.001

見とのクロス集計を行い、性別以外の分析結果については $\chi^2$ 検定の結果有意差の見られるクロス表だけ掲載したが、学校週5日制に対する賛否は学業に強く規定されていると考えられる。学校に対する保護者の期待内容（学力の向上・躰の教育・個性の伸長・社会性の育成の中から択一で回答してもらったが、表の掲載は省略した）と賛否とのクロス集計結果では有意差が認められなかった。しかし、保護者が学校に期待する学習内容を1個に限定することには無理が合ったと考えられる。したがって、有意差が認められなかったのは当然といえるが、小・中学校に在籍する年長男子の年齢別の分析、保護者の期待する休業土曜日の過ごし方別の分析の結果より、土曜日が休業になることにより勉強がおろそかになり、学力に影響することを危惧している人に学校週5日制に反対の意見を持つ人が多いと考えられる。

一方、小・中学校に在籍する年長男子の年齢別の分析及び保護者の期待する休業土曜日の過ごし方別の分析より、学校週5日制に反対の保護者よりも子供が低年齢であり、勉強も大事であるが休日にはゆっくり休養して欲しい、と考えている人に学校週5日制に賛成の人が多く、また、学校の体育的行事や体育の授業時数の削減に対して肯定的な人に学校週5日制への賛成者が多いことから、教育課程の精選・スリム化に賛成の人に学校週5日制への賛成者が多いと考えられる。

## 2 保護者が子供に期待する休業土曜日の活動内容

### 1) 男女別に見た期待する休業土曜日の活動内容

表3-1は男女別に見た期待する休業土曜日の活動内容である。保護者が期待している休業土曜日の活動内容の中で最も割合の高いのは、男子の保護者では文化的・芸術的活動であり、女子の保護者ではゆっくり休養して欲しい、である。

男女間の比較では男子の保護者ではスポーツをして欲しいと考えている保護者が多く、ゆっくり休養して欲しいと考えている人は少ない。一方、女子ではスポーツをして欲しいと考えている保護者は少なく、ゆっくり休養して欲しいと考えている人が多く見られ、休業土曜日に保護者が子供に期待している活動内容について男女の保護者間に差異が見られる。

### 2) 学校への期待内容別に見た期待する休業土曜日の活動内容

表3-2は学校への期待内容別に見た期待する休業土曜日の活動内容である。学校に対する期待内容として子供の学力の向上を最優先させている保護者では、休業土曜日に休養や文化的・芸術的活動、スポーツをして欲しいと考えている点では他の群と同様であるが、勉強して欲しいと考えて

表3-1 男女別に見た期待する休業土曜日の活動内容\*

	男子	女子
勉強して欲しい	8.9	10.5
文化的・芸術的活動をして欲しい	29.1	24.4
スポーツをして欲しい	27.8**	13.1**
ゆっくり休養して欲しい	26.6*	41.5*
その他	7.6	10.5
	(N=79)	(N=275)

$$\chi^2=12.973 \quad *p<.05 \quad **p<.01$$

表3-2 学校への期待内容別に見た期待する休業土曜日の活動内容\*

	学力の向上	個性の伸長	社会性の育成
勉強して欲しい	15.4**	4.3 <sup>†</sup>	3.6*
文化的・芸術的活動をして欲しい	25.1	34.3 <sup>†</sup>	22.6
スポーツをして欲しい	14.9	15.7	21.4
ゆっくり休養して欲しい	36.6	40.0	38.1
その他	8.0	5.7	14.3 <sup>†</sup>
	(N=175)	(N=70)	(N=84)

$$\chi^2=18.355 \quad ^{\dagger}p<.10 \quad *p<.05 \quad **p<.01$$

いる保護者が他の群に比べて多く見られる。個性の伸長を最優先して期待している保護者には、勉強して欲しいと考えている人が少なく（有意傾向）、文化的・芸術的活動をして欲しいと考えている人が多く（有意傾向）見られる。また、社会性の育成を最優先して期待している保護者では、勉強して欲しいと考えている人が少なく、趣味を追求して欲しい等のその他の活動を期待している人が多く見られ（有意傾向）、保護者の学校への期待内容と期待する休業土曜日の活動内容の間に関連性が見られる。

### 3 保護者が子供に期待する休業土曜日の過ごし方

#### 1) 男女別に見た期待する休業土曜日の過ごし方

表4-1は男女別に見た子供に期待する休業土曜日の過ごし方である。男女とも保護者は家族と過ごして欲しいと考えている人が最も多いが、友達と過ごして欲しい、1人でもいいから、好きなことをして欲しいについては、男子では両者が同程度であり、女子では後者が前者を上回っている。

表4-1 男女別に見た期待する休業土曜日の過ごし方

	男子	女子
家族と過ごして欲しい	39.2	46.1
友達と過ごして欲しい	26.6	18.6
1人でもいいから、好きなことをして欲しい	26.6	28.3
N・A	7.6	7.1
	(N=79)	(N=269)

なお、男女の保護者間の差については有意差が認められなかった。

### 2) 小・中学校に在籍する年長男子の年令別に見た期待する休業土曜日の過ごし方

表4-2は小・中学校に在籍する年長男子の年令別に見た期待する休業土曜日の過ごし方である。年令別の比較では15才の子供を持つ保護者に家族と過ごして欲しい、と考えている人が他の年令群よりも少なく、友達と過ごして欲しいと考えている人が多く見られる。また、11才以下の子供を持つ保護者では家族と過ごして欲しい、と考えている人が他の年令群よりも多い。なお、保護者の家族と過ごして欲しいという希望は11才以下で最も高く、15才で最も低かったが年令が高くなるにつれて減少していく傾向がみられる。一方、友達と過ごして欲しい、という希望は15才の子供を持つ保護者で最高の値を示し、年令が下がるにしたがって減少していく傾向が現れており、子供の年令により保護者の子供に期待する休業土曜日の過ごし方に違いが見られる。

表4-2 小・中学校に在籍する年長男子の年令別に見た期待する休業土曜日の過ごし方\*

	12才	13才	14才	15才	11才以下	男子いない
家族と過ごして欲しい	37.5	48.5	35.2	22.7*	59.4 <sup>†</sup>	50.5
友達と過ごして欲しい	21.4	24.2	25.9	45.5**	12.5	10.3**
1人でもいいから好きなことを して欲しい	30.4	22.7	33.3	27.3	21.9	31.8
その他	10.7	4.5	5.6	4.5	6.3	7.5
	(N=56)	(N=66)	(N=54)	(N=22)	(N=32)	(N=107)

$\chi^2=25.740$

<sup>†</sup>p<.10

\*p<.05

\*\*p<.01

### 3) 期待する休業土曜日の活動内容別に見た期待する休業土曜日の過ごし方

表4-3は保護者が期待する休業土曜日の活動内容別に見た期待する休業土曜日の過ごし方である。休養土曜日には子供に勉強して欲しいと考えている保護者では、他の群と比べて家族と過ごして欲しいと考えている人が多く（有意傾向）、友達と過ごして欲しいと考えている人は少ない（有

表 4-3 期待する休業土曜日の活動内容別に見た期待する休業土曜日の過ごし方\*\*\*

	I	II	III	IV	V
家族と過ごして欲しい	58.3 <sup>†</sup>	32.5**	52.6	47.8	34.4
友達と過ごして欲しい	8.3 <sup>†</sup>	32.5**	33.3**	11.9**	18.8
1人でもいいから好きなことを して欲しい	19.4	30.1	10.5**	36.6**	18.8
その他	13.9	4.8	3.5	3.7*	28.1***
	(N=36)	(N=83)	(N=57)	(N=134)	(N=32)

I : 勉強して欲しい  $\chi^2=61.053$  <sup>†</sup>p<.10 \*p<.05 \*\*p<.01 \*\*\*p<.001

II : 文化的・芸術的活動をして欲しい

III : スポーツをして欲しい

IV : ゆっくり休養して欲しい

V : その他

#### 4 体育的行事の削減に対する保護者の意見

##### 1) 男女別に見た体育的行事の削減に対する意見

表 5-1 は男女別に見た体育的行事の削減に対する保護者の意見である。男女ともに何とも言えないと回答した人が最も多いが、次いで、体育的行事の削減は好ましくないとする人が多く、好ましいと答えた肯定派をかなり上回っている。

表 5-1 男女別に見た体育的行事の削減に対する意見

	男子	女子
好ましいことである	18.3	12.7
何とも言えない	47.6	50.2
好ましくない	32.9	33.9
N・A	1.2	3.2
	(N=82)	(N=283)

##### 2) 運動会の平日開催に対する意見別に見た体育的行事の削減についての意見

表 5-2 は運動会の平日開催に対する意見別に見た体育的行事の削減についての保護者の意見である。運動会は平日開催でも構わないと運動会の平日開催に対して肯定的な意見を表明した保護者

では、他の群と比較すると体育的行事の削減に対して好意的な人が多く、非好意的な人が少ない。平日開催では困ると平日開催に対して否定的な意見を表明した保護者では、体育的行事の削減に対して好意的な人は少なく、非好意的な人が多い。また、運動会の平日開催に対して否定的な人では、体育的行事の削減に対して何ともいえないと不明確な態度を示した人が他の群と比較して少なく、賛成・反対について明確な態度を表明している人が多い。

表5-2 運動会の平日開催に対する意見別に見た体育的行事の削減に対する意見\*\*\*

	平日開催でも構わない	何ともいえない	平日開催では困る
好ましいことである	22.9**	8.8	7.8**
何ともいえない	58.6*	61.8	38.3***
好ましくない	18.6**	29.4	53.9***
	(N=140)	(N=68)	(N=141)
	$\chi^2=46.383$	*p<.05	**p<.01
			***p<.001

## 3) 体育の授業時数の削減に対する意見別に見た体育的行事の削減についての意見

表5-3は体育の授業時数の削減に対する意見別に見た体育的行事の削減についての保護者の意見である。体育の授業時数が削減されても構わないと考えている削減に対して肯定的な保護者では、体育的行事の削減に対して削減されることは好ましいことであるという好意的な反応を示す人が他の群と比較して多く見られるのに対して、好ましくないと非好意的に考えている人が少ない。一方、体育の授業時数は削減されては困ると削減に対して否定的な立場をとる保護者では、体育の授業時数の削減に対して好ましいことであると考えている削減に好意的な人が少なく、好ましくないと削減に対して非好意的な態度を示す人が多い。また、体育の授業時数の削減に対して否定的な保護者では体育的行事の削減に対して、賛成・反対の明確な意見を保持している人が多いことがわかる。

表5-3 体育の授業時数の削減に対する意見別に見た体育的行事の削減に対する意見\*\*\*

	削減されても構わない	何ともいえない	削減されては困る
好ましいことである	29.6***	10.5	9.0*
何ともいえない	65.4**	67.7***	29.0***
好ましくない	4.9***	21.8***	62.1***
	(N=81)	(N=124)	(N=145)
	$\chi^2=99.497$	*p<.05	**p<.01
			***p<.001

## 5 運動会の平日開催についての対する保護者の意見

### 1) 男女別に見た運動会の平日開催に対する意見

表6-1は男女別に見た運動会の平日開催に対する保護者の意見である。運動会の平日開催に対して、男子では平日開催でも構わないとする肯定的意見が平日開催では困るといふ否定的意見を上回っているが、女子では否定的意見が肯定的意見を若干上回っている。

男女間の比較では、平日開催でも構わないという意見が女子と比べて男子の方に多く見られる。また、何ともいえないという意見は男子と比べて女子の方に多く見られ、男女差が見られる。なお、平日開催では困るといふ意見については有意差が認められなかった。

表6-1 男女別に見た運動会の平日開催に対する意見\*

	男子	女子
平日開催でも構わない	50.6*	37.3*
何ともいえない	11.4*	21.5*
平日開催では困る	38.0	41.2
	(N=79)	(N=279)
	$\chi^2=6.158$	* $p<.05$

### 2) 体育の授業時数の削減に対する意見別に見た運動会の平日開催に対する意見

表6-2は体育の授業時数の削減に対する意見別に見た運動会の平日開催に対する保護者の意見である。体育の授業時数は削減されても構わないという削減に対して肯定的な保護者では、運動会が平日開催でも構わないという運動会の平日開催に肯定的な人が最も多く、平日開催では困るといふ平日開催に対して否定的な人の割合を3倍上回っている。授業時数は削減されては困るといふ削減に対して否定的な人では、平日開催では困るといふ平日開催に対して否定的な人が最も多く、肯定的な人を大幅に上回っている。

表6-2 体育の授業時数の削減に対する意見別に見た運動会の平日開催に対する意見\*\*\*

	削減されても構わない	何ともいえない	削減されては困る
平日開催でも構わない	68.7***	34.7	28.1***
何ともいえない	8.4**	27.4**	19.2
平日開催では困る	22.9***	37.9	52.7***
	(N=83)	(N=124)	(N=146)
	$\chi^2=44.301$	** $p<.01$	*** $p<.001$

各群間の比較では体育の授業時数の削減に対して肯定的な保護者は、運動会の平日開催に対して肯定的な人が多く、平日開催に対して否定的な人は少ない。また、授業時数の削減に対して否定的な保護者では運動会の平日開催について否定的な人が多く、肯定的な人は少ない。

## 6 保護者の体育の授業時数の削減に対する意見及び削減時に期待する体育目標

### 1) 体育の授業時数の削減に対する保護者の意見

表7は男女別に見た体育の授業時数の削減に対する保護者の意見である。男子では削減に対して否定的な人よりも肯定的な人の方が多いが、女子では肯定的な人よりも否定的な人の方が若干多い。

男女間の比較では男子に授業時数の削減に対して肯定的な人が多く、女子では少ない。また、男子には体育の授業時数の削減に対して明確な意見を持つ人が女子に比べて多く多く見られる。

表7 男女別に見た体育の授業時数の削減に対する意見\*

	男子	女子
削減されても構わない	50.6*	37.3*
何ともいえない	11.4*	21.5*
削減されては困る	38.0	41.2
	(N=79)	(N=279)

$$\chi^2=6.158$$

$$*p<.05$$

### 2) 体育授業時数の削減時に期待する体育目標

表8は体育の授業時数が従来よりも削減された場合に保護者が期待する体育目標である。男女の保護者ともスポーツに親しむ態度の育成を期待している人が最も多く、男女とも45%前後を占めている。次に期待されている目標は社会性の育成と体力の向上であり、男女とも25%以上29%未満の間の支持を得ている。なお、スポーツ技術の向上を体育科教育の主要な目標として期待している保護者は男女ともにきわめて少数である。

表8 男女別に見た体育授業時数の削減時の期待する体育目標

	男子	女子
体力を高めたり、発達を促したり等体を鍛えて欲しい	26.3	28.7
スポーツの技術を身につけさせて欲しい	2.5	0.7
友達と協力し合うこと等により社会性を身につけさせて欲しい	27.5	25.1
スポーツに親しむ態度を育成して欲しい	43.8	45.5
	(N=80)	(N=279)

学校の体育的行事の削減，運動会の平日開催，体育の授業時数の削減についての $\chi^2$ 検定より，すべての組み合わせについて有意差が認められたため，項目間の関連性の高いことが明らかになった。つまり，ある項目で賛成の保護者は他の項目でも賛成する人が多く，ある項目で反対の人は他の項目でも反対の意見を持っている場合が多い，と解釈できる。

#### IV 要 約

本研究は現在導入・実施されている学校週5日制に関連して生じてきた問題点及び今後生じてくると考えられる問題点について，どのような人がどのような意見を持っているのかを分析してきたが，結果を要約すると以下ようになる。

1. 学校週5日制についての賛否では，15才・14才の子供を持つ保護者のグループで他の群と比較して賛成が少なく，また，休業土曜日には勉強して欲しいと考えている保護者には反対が他の群に比べてきわめて多いことから，学力に影響することを危惧している人に学校週5日制に反対の意見を持つ人が多いと考えられる。

一方，子供が反対群よりも低年齢であり，休業土曜日にはゆっくり休養して欲しいと考えている保護者では賛成の人が多く見られた。また，学校の体育的行事や体育の授業時数の削減に対して肯定的な人にも賛成の人が多く見られており，教育課程のスリム化に賛成の人に学校週5日制に賛成の人が多くと考えられる。

2. 保護者が子供に期待する休養土曜日の活動内容では，保護者の性別，学校への期待内容との間に関連性が認められた。また，保護者が子供に期待する休業土曜日の過ごし方では，小・中学校に在籍する年長男子の年齢，保護者が期待する休養土曜日の活動内容との間に関連性が認められた。

3. 学校の体育的行事の削減，運動会の平日開催，体育の授業時数の削減については， $\chi^2$ 検定の結果すべての組み合わせに有意差が認められ，項目間の関連性の高いことがわかった。

学校週5日制に対する賛否，学校の体育的行事の削減，運動会の平日開催，体育の授業時数の削減についての保護者の意識の分析より，項目間に関連性のあることが明らかとなった。そして，保護者の中には，従来通り学校に多くのことを期待し学校に依存していこうとするタイプと教育課程のスリム化を支持している学校への依存度の低いタイプが存在する事が明らかになったが，学校週5日制が保護者に受容・支持されるためには，依存タイプの保護者が危惧している学力の低下等の学校週5日制の導入により出来る可能性のある様々な問題について，十分な配慮が払われる必要がある。

また，今回の分析は体育に関連した項目の分析が中心であり，他教科の関連事項についての分析は取り扱っていない。しかし，他教科でも体育に関連した項目の分析結果と同様の結果が得られるのか，或いは，異なった結果が見られるのかについては検討されていようと思う。

本研究では鳥取大学附属中学校生徒の保護者の方々に調査に協力して頂いたが，調査の実施，調査票の配布・回収に関して鳥取大学教育学部山岸先生，附属中学校古寺先生，安治先生他多くの先生方にお世話になりました。記して感謝の意を表します。

## 注

- 注1) 藤田は運動会を平日に開催する学校が増えていることについて、生徒や父兄の運動会に対する期待や願いを考えれば、やはり、平日開催は再考を要するのではないかと述べている<sup>18)</sup>。
- 注2) 小・中学校に在籍する年長男子の年齢は、調査の行われた1996年7月の時点での年齢である。したがって、15才の生徒が中学3年生であることは言うまでもないが、14才の生徒の中にも中学3年生が含まれているし、他の年齢区分の中でも同様の現象が見られる。

## 引用・参考文献

- 1) 鳥取県教育委員会：「平成7年度 休業土曜日生活実態調査結果まとめ」
- 2) 鳥取県教育委員会：「平成7年度 休業土曜日生活実態調査結果まとめ(その2)」
- 3) 加古川市教育委員会：「学校週5日制実施後の児童生徒のアンケート調査」 1993年2月
- 4) 東京都教育委員会：「学校週5日制の実施状況について」 1993年9月
- 5) くもん子ども研究所：「学校5日制 ～導入から1年～ <子ども>アンケート調査」1993年8月
- 6) 愛知県高等学校教職員組合：「高校生学校5日制アンケート調査」 1993年2月
- 7) 東京都練馬区立開進第三小学校：「児童・保護者学校週5日制に対する意識調査」 1993年5月
- 8) 日本PTA全国協議会：「平成8年度 学校生活アンケート調査」 1996年8月
- 9) 長野吉田高等学校：「学校5日制アンケート調査の結果と考察についての報告」 1993年3月
- 10) 日本家庭教師センター学院：「『学校5日制』に対する意識と実態」 1993年9月
- 11) くもん子ども研究所：「学校5日制 ～導入から1年～ <親>アンケート調査」 1993年8月
- 12) 長野県下伊那校長会：「学校週5日制に伴う保護者への調査・学校行事に関する調査」 1993年7月
- 13) 神奈川県海老名市教育センター：「学校5日制のための教育課程編成について」 1992年7月
- 14) 岩手県小学校長会：「学校5日制実施にともなう学校経営のあり方について」 1993年3月
- 15) 藤田雅文：「中学校における体育的行事の動向—学校週5日制の影響—」 鳴門教育大学研究紀要(生活・健康編) 第11巻 1996年
- 16) 長野県下伊那校長会：前掲書12
- 17) 藤田雅文：前掲書15
- 18) 藤田雅文：「中学校における運動会の成果を規定する要因分析」 鳴門教育大学研究紀要(生活・健康編) 第4巻 p.149 1989年
- 19) 西 順一：「学校週5日制をめぐる論議が投げかけたもの」 学校体育 第49巻第4号 日本体育社 pp.18～20 1996年
- 20) 高橋健夫：「今こそ問われる体育教師の専門性」 体育科教育 第44巻第3号 大修館書店 pp.21～24 1996年
- 21) くもん子ども研究所：前掲書11
- 22) 日本PTA全国協議会：前掲書8
- 23) 團 琢磨・大橋美勝編著：『学校5日制と生涯スポーツ』 不味堂出版 1993年
- 24) 大内勝夫：「教育改革としての学校週5日制と学校体育経営」 体育の科学 第47巻第2号 杏林書院 pp.96～98 1997年